

# 日本の船が歩んできた道



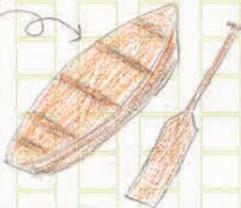
**古今東西船新聞**

武蔵野市立  
本宿小学校  
6年2組  
竹内志穂

## 2. 飛鳥時代は遣隋使・遣唐使の開始

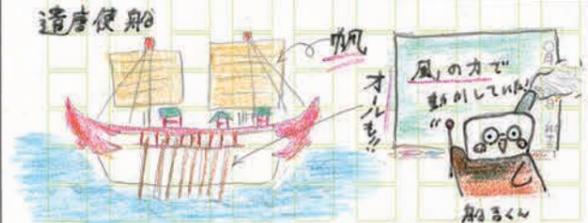
飛鳥時代から平安時代にかけて、中国の進んだ文化・文明を取り入れるために遣隋使や遣唐使が派遣されました。ですが、当時は帆船だったので天候の影響を受けやすく、中国との交易は、今でもこの遣隋使と遣唐使によつて、茶や湯、仏教などが日本に取り入れられていき、法律や唐の律令を手本にして作られました。

丸木舟は櫂という  
オールみたいなのを  
漕いで動かして  
いた。



## 1. 日本古代の船は丸木舟?

今から約三万五千年前日本人の祖先は、中国から日本列島に木をくり抜いて作る「丸木舟」で渡って来ました。現在は、縄文人も船を使っており、海を渡って交易が行われていたといふことも分かっています。また、黒曜石が出土していることから、船には黒曜石が出土していることから、船に使って交易が行われていたことの証拠になっています。



遣唐使船

船の燃料

石炭100円  
電気100円  
石油100円

盛んになりました。

平安・鎌倉時代は、宋の貿易が盛んになり、遣唐使を廃止したあと、平清盛が、利益を得るために宋との貿易を始めます。そのため、今の神戸港の基礎になった大規模な港「大輪田泊」を整備し、そこを中心として貿易をしました。平安時代末期には、宋から医薬や絹織物、宋銭などの輸入され、日本からは扇・刀剣などが輸出されました。

船の妖精!!

船吉くん

Q1. 大きな船は何で進む?

A. プロペラ  
B. ホール  
C. 水かき

Q2. 日本の貿易で海運輸送は約何%?

A. 約59%  
B. 約39%  
C. 約99%

Q3. 現代の船の燃料は?

A. 木 C. 電気  
B. 石油 D. 人力

……答えは裏へ!!

室町時代は貿易のために船を使う!!

近畿地方や蝦夷地(北海道)まで船が往来してそれだけの土地の産品が運ばれていました。このことにより、いろいろな地方でいろいろな食べ物やものがたくさん買えるようになり、各地に市場がたくさんできて物の売り買いが盛んになりました。

はじめに

私は、歴史が好きで、歴史上の出来事に関心があります。歴史の本を読んでいると、船に関する色々な出来事があることから興味を持ちました。実際に船の歴史について調べてみると、とても面白く、また、日本の歴史では、船が登場したことにより、加ラツと生活や戦争の仕方が変わりました。たことが分かりました。『そこに何かある、たのびろう?』と疑問が湧いてきたので、探ってみることにしました。

4. 戦国・江戸時代に

戦国時代になると、戦国時代の日本流の船が、國人が来航し、技術・生糸・鉄砲などがもたらされました。織田信長・豊臣秀吉・徳川家康は、海外との交易に熱心で、勘合符や朱印状などを使って、スペイン、ポルトガルなどとの貿易を促しました。レハレ江戸幕府3代将軍徳川家光の時には、オランダと中国以外の国との貿易を止め、鎖国状態になりました。そして、その間に日本独自の船が作られ、人の運び、日本の造船技術はどんどん発達していったそうです。

5. 明治時代

外国進出!!

パリに黒船が来航し、開港するよう求めたので、日本は他国との貿易を再開します。その中で今も続いている日本郵船という大きな会社が生み出されました。その後、明治政府は積極的に外国進出・大型船の開発を進めていきました。船の輸送などで大金持ちになった人が増え、日本は世界を代表する海運国の一つとして、世界から意識されるようになりました。

6. 現代

船の材料が木から鉄へと変わり、今では、漁船、旅客船、ヨットなど色々な種類の船が生まれてきました。今の日本が輸入するほとんどの輸送手段は、船が飛行機ですが、船の割合が99%と、日本と海外の交易も支えています。つまり、船がなければ、今の私達の生活は成り立たなくなってしまうのです!!

# 船の燃料の歴史

**1. 人の力と風の力**  
昔、船が生まれたばかりの時代は、人の力と風の力で船を動かしていました。紀元前四千年前くらい前のギリシャやエジプトにある壁画には帆がはたき、船の絵が描かれていたそうです。また、帆船をつくる技術も進化し、16世紀にはコロンブスが大西洋横断をしたり、マゼランが艦隊が世界一周をしたりしました。

**2. 石炭が**  
使われ始める産業革命が起こると、ヨーロッパ人の発明家フルトンにより、世界で初めて外輪船蒸気船が作られました(1807年)。蒸気船は、大量の石炭を燃料にしていました。ですが、初めの頃は、船の中のほとんどが燃料を積むためのスペースになってしまい、物を積む場所が少なくなったり、爆発事故も頻繁に起こったりしたため、外国への行き来ではなく、川や湖で蒸気船が使われていました。ですが、船々と動力装置が外輪からスクリーンに変わるなど改善されていき、国同士の行き来もできるようになりました。

**3. 石炭から石油へ**  
19世紀にアメリカで石油が発見され、石油は石炭よりも体積当たりのエネルギーが大きくなり、船の中の燃料貯蔵庫を小さくして荷物を乗せる場所にできる「石炭の積みこみ」などに必要となる量を減らすことができるというメリットがあり

ました。第二次世界大戦後は、船・エンジンの大型化が進んでいき、船用重油が使われていきました。今の大型船の多くは、その船用重油を燃料として使っています。でも、船用重油には、環境に良くない温室効果ガスがたかくさん入っているのです。加えて規制が厳しく強化されてきていて、環境省には、2030年までに温室効果ガスを40%減らすという目標もあるそうです。

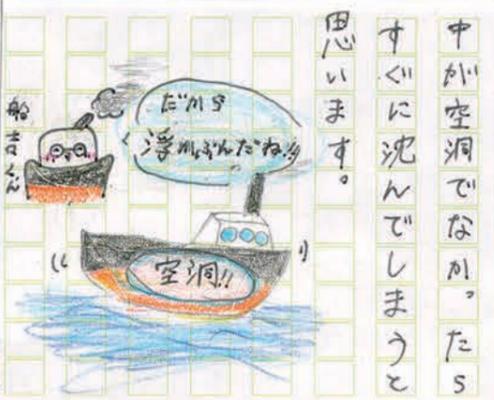
**4. 未来の燃料**  
温室効果ガス削減を達成するためには、今使われている石油などを燃料とするエンジンや電気を使った燃料に変えていくなど、色々なやり方が考えられています。昔は、使いたす燃料が求められていたけれど、今は、安く環境に優しく、持続可能な燃料が求められるように

なっています。2024年10月24日には、水素燃料電池船「まほろば」が完成したそうです。2024年11月7日付朝日

船が沈まないのは、船の中が空洞になっているからです。船は、重い鉄でできていますが、中が空洞になっているので、船の体積と、同じ量の水よりは軽くなるので、水の上に浮かぶのだそうです。昔は鉄ではなく木でしたが、鉄ではなく木だと、たいてい、今より軽いと思えますが、それでも中が空洞でなければ、たすすくに沈んでしまうと思えます。

船を世界で初めて造ったのは？

船を世界で初めて造ったのは？



船が沈まないのは、船の中が空洞になっているからです。船は、重い鉄でできていますが、中が空洞になっているので、船の体積と、同じ量の水よりは軽くなるので、水の上

船を世界で初めて造ったのは？

Q1: A. 7000年  
今の大型船の多くは、扇風機の羽みたいなものを回転させて、水を押し出して進む「スクループロペラ」で進んでいます。

船を世界で初めて造ったのは？

Q2: C. 約99%  
船は、早く届かせるほど高いお金がかかる飛行機と違って、時間はかかるけれど、安く、たくさんもの運べるので、輸送のほとんどです。

船を世界で初めて造ったのは？

Q3: B. 石油  
船は、一日数十トンの燃料を消費するので、安く、多くの荷物を運べる石油が燃料として使われています。

船を世界で初めて造ったのは？

編集後記

船については、学校の授業で学習したくらいでしたが、今回調べていくうちに、面白いことがたくさん発見できました。例えば、古代の丸木舟は、丸木一本をそのまま使っていて、手作業でくりぬいていたということを知り、驚きました。そこからどんどん技術が発達し、ヨットや漁船、輸入・輸送をするためのコンテナ船など、形が変わって進化していったことが分かりました。まだまだ知らないことも多いので、これからも船への興味を広げていきたいです。